

2013(平成 25)年度高校入学式式辞

式辞 桜の花もようやく膨らみ始め…とは、去年の時候の挨拶でした。今年は、この冬の平年を下回る厳しい寒さによる「休眠打破」のおかげで、花芽の目覚めが順調で、プラスして、3月に入ってから記録的高温で、早やソメイヨシノは満開を過ぎ、散り始め、日吉参道のピンク色のしだれ桜は、今が盛りと咲き誇っています。

桜の花の季節は丁度、年度の替わり目にあたり、別れや旅立ち、新たな出会いが多くみられ、その過程で抱く不安や希望を彩るのが美しい桜と言えます。

爛漫たる春の装いのなか、本日、杉本辰佳親師会会長様をはじめ、多くの保護者の皆様にお越しいただき、ここに延暦寺学園比叡山高等学校入学式が盛大に挙行できますことは、私たち教職員は言うに及ばず、在校生にとりましても、このうえもない喜びでございます。高い所からではありますが、厚くお礼申し上げます。ありがとうございます。

ただ今名前を呼ばれました471名の生徒の皆さん、入学おめでとうございます。皆さんはさぞかし、希望に胸を踊らせているものと推察いたします。9年間の義務教育を終え、今日から高校生です。これからは一人一人の強い意志と自覚、さらに勇気と将来を見据えた意欲ある粘り強い努力が求められます。

本校は、1873(明治 6)年比叡山頂に天台宗総鬘として設立されたのに始まり、今年で丁度140年を迎える歴史と伝統のある学校です。10年後には150周年を迎えます。その記念事業として、本年度後半から新校舎建設が始まります。何かと迷惑をかけると思いますが、よろしく願いいたします。

本校は私立学校ですので、独自の建学の精神というものをもっております。それは、比叡山延暦寺をお開きになった伝教大師最澄上人の御教えであり、大師はその著書『山家学生式』のなかで、「国宝とは何ものぞ。宝とは道心なり。道心ある人を名付けて国宝と為す。」と述べておられます。

国の宝となる存在は道心ある人で、道心ある人とは、「一隅を照らす」「能く行い能く言う」「己を忘れて他を利す」人をいいます。「一隅を照らす」とは、ポストにベスト、それぞれが持ち場持ち場で最善を尽くすことであり、一人一人が一隅を照らし光り輝けば、

世の中全体が明るくなるというものです。「能く行い能く言う」は、学んで習得した知識を実行に移し真実を把握しようという意味ですし、「己を忘れて他を利す」は自分のことはさておいても他者、人のためになることをしようという意味です。

この3つの校訓に加え、日常の実践目標として「掃除・挨拶・学問」を掲げ、日々指導にあたっております。

「掃除」 これは毎日の清掃活動にとどまらず、服装＝身なりを整えることを含みます。

「挨拶」 気持ちのよい挨拶を交わすことによって、人と人のコミュニケーションを図っていく。

「学問」 掃除ができ、挨拶ができ、環境を整えることができはじめて、勉強ができるというものです。

高村光太郎の詩『道程』に「僕の前に道はない 僕の後ろに道はできる」という有名なフレーズがございます。冒頭、私は希望という言葉を出しましたが、これを振ってみますと、希望は自分の遠い先の方にあるのではなく、自分の行動の中にあるのです。勉強も部活動も、行動しなければ何も得られません。行動して自分が変わったと実感する瞬間に希望は生まれます。行動した結果、失敗することがあるでしょう。軌道修正の必要なこともあるでしょう。それでもその後には、目標が見えてきます。失敗を恐れず、仲間とともに挑戦していきましょう。

最後になりますが、保護者の皆様にお願いがございます。高校生の時代は、少年から青年へと移行する段階で、疾風怒濤ともいわれ、心身とも成長と発達の変化が激しい時です。どうか、我が子の歩む姿や努力のあとをしっかりと見つめ、時には温かく励まし、時には厳しく接し、支えてやっていただければと思います。

保護者の皆様のご協力を得ながら、子どもたちの健全な発展のため、全力を尽くすことをお誓いし、新入生の輝かしい前途を祈念して式辞といたします。

平成25年4月9日

延暦寺学園比叡山高等学校

校長 松村 実